

澤田政廣略年譜

1894年(明治27年) 0歳

澤田小兵衛、とくの三男として熱海町に生まれる。
本名は澤田寅吉。幼年期の実家は「亀屋」の屋号で廻船業、少年期の家業は製材業を営む。

1913年(大正2年) 19歳

旧制葦山中学校(現在の葦山高校)を中退、木彫家高村光雲の高弟、山本瑞雲に師事する。

1921年(大正10年) 27歳

第3回帝展に「人魚」初入選。本名の寅吉で出品。



1923年(大正12年) 29歳

矢の下とみと結婚、本郷区動坂に住む。
関東大震災のため帝展は中止。

1924年(大正13年) 30歳

第5回帝展で「銀河の夢」特選。
東京美術学校彫刻科別科にて、朝倉文夫の指導を受ける。

1927年(昭和2年) 33歳

第8回帝展で「白日夢」特選。このころ号を「寅」とする。
以後「七姫」「白鳳」と3年連続して特選。



1932年(昭和7年) 38歳

第13回帝展で「華炎」出品、政府買上となる。
このころ号を「晴廣」とする。

1935年(昭和10年) 41歳

太平洋美術学校の講師となる。

1937年(昭和12年) 43歳

この年、世田谷区玉川田園調布に居をかまえる。

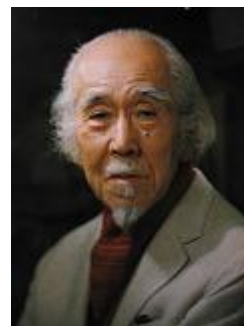
1940年(昭和15年) 46歳

日本木彫会を脱退し、「正統木彫家協会」を結成する。

1946年(昭和21年) 52歳

第2回日展に「赤童子」を出品、政府買上となる。

- 1952年(昭和27年) 58歳**
第7回日展(1951年)出品作「五木之精」にて、芸術選奨文部大臣賞を受ける。
- 1953年(昭和28年) 59歳**
第8回日展(1952年)出品作「三華」にて、日本芸術院賞を受ける。
- 1955年(昭和30年) 61歳**
三嶋大社の「矢田部盛治像」を制作。
- 1956年(昭和31年) 62歳**
第12回日展に「黄泉のしこめ」を出品。この年から号を「政廣」とする。
- 1961年(昭和36年) 63歳**
熱海仏舎利塔日本山妙法寺の「釈迦牟尼世尊像」を制作。
- 1962年(昭和37年) 68歳**
日本芸術院会員となる。
- 1963年(昭和38年) 69歳**
平塚市に「海の讃歌」を制作。
- 1964年(昭和39年) 70歳**
霊友会弥勒山(東伊豆町大川)に「弥勒菩薩像」を制作。
「名取栄一像」(元沼津市長)を制作。
- 1967年(昭和42年) 73歳**
「勝又春一像」(初代御殿場市長)を制作。
- 1969年(昭和44年) 75歳**
改組第1回日展に「人魚」を出品
高野山金剛峰寺金堂に「金剛王菩薩」を制作。
- 1970年(昭和45年) 76歳**
霊友会本尊「釈迦如来像」を制作。(高さ 7.58m)
第2回日展に「長嶋選手像」を出品
- 1971年(昭和46年) 77歳**
熱海親水公園の「釜鳴屋平七像」を制作。
永平寺持仏、「普賢菩薩」、「文珠菩薩」を制作。
第1回新日彫展「釈迦」を出品。
- 1973年(昭和48年) 79歳**
日本橋三越で「彫刻60年の歩み・澤田政廣展」を開催、文化功労者として顕彰さる。



1974年(昭和49年) 80歳
熱海市名誉市民として顕彰される。

1975年(昭和50年) 81歳
澤田家菩提寺、中野区宝仙寺の天井画「天人」と壁画を制作。

1977年(昭和52年) 83歳
東本願寺難波別院に「蓮如上人像」を制作。

1979年(昭和54年) 85歳
身延山久遠寺祖師堂に「日蓮上人像」を制作。
文化勲章を受章する。

1981年(昭和56年) 87歳
奈良の薬師寺西塔の尊像仏四体を制作。

1981年(昭和56年) 88歳
東京都世田谷区名誉区民として顕彰される。

1983年(昭和58年) 89歳
新潟県糸魚川市に「谷村美術館・澤田政廣作品展示館」開館。

1987年(昭和62年) 93歳
「熱海市立澤田政廣記念館」開館。
第19回改日展「大聖不動明王」を出品。

1988年(昭和63年) 93歳
4月、日本橋三越で「澤田政廣記念館開館記念・澤田政廣展」を開催。
5月 1日、急性肺炎にて死去。従三位に叙され、勲一等瑞宝章を追賜される。
5月21日、本葬儀を東京都中野区宝仙寺にて行う。
5月24日、熱海市葬を熱海市観光会館にて行う。

2004年(平成16年)
11月 3日、館名を「熱海市立澤田政廣記念美術館」に改称。